

今週は底値を脱却か

大林組

となる。

大林組の株価が10月29日に340円を付けて年初来安値を更新した。年初来高値(547円)からはほぼ4割下げた。10月9日の今年度の第2四半期業績予想を下方修正したことがボディーブローのように利いているが、26日に訴訟問題が表面化したことで一段の下げ基調となった。訴訟を起したのは愛知県、廃棄物最終処分場の地盤改良工事で、大林組など3社が設計書と違う資料を使ったため、同県は大林組らを相手取り42億円の損害賠償を求めて名古屋地裁に提訴した。ゼネコン側が敗訴すれば、大林組にとって大きな痛手となる。一方で、明るい材料も出始めた。前原国交相の羽田ハブ化発言に端を発し、世間の関心が空港に向けられていることから滑走路の延伸工事や新設需要の増大、さらにアクセス整備が現実性を帯びている。市場では「羽田・成田空港」関連銘柄が物色されるとの思惑買いが膨らんでいるとも。大林組の反転となるか。

企業価値検索サービス ユーレット アクセス上昇ランキング

(10月25~31日)

	銘柄	取引所	株価(円)
1	凸版印刷	東証1部	825
2	大林組	東証1部	345
3	ラディアHD	東証2部	—
4	穴吹興産	大証1部	200
5	日本航空	東証1部	117

*10月30日終値。ラディアHDは29日付で上場廃止

3社が設計書と違う資料を使ったため、同県は大林組らを相手取り42億円の損害賠償を求めて名古屋地裁に提訴した。ゼネ

20ポイント還元!!
biccamera.com

屋地裁に提訴した。ゼネコン側が敗訴すれば、大林組にとって大きな痛手

ユーレット 上場企業4000社の決算書を複数年にわたりデータベース化したサイト。売上高や営業CFなど、さまざまな角度から企業の経営を分析し、ワンクリックで他社と比較できる。経営方針の転換や経営リスクの高まりなど、市場が注目する銘柄のアクセスが増える傾向がある。